

胃外科  
ロボット支援下手術  
ご紹介



胃外科  
徳永 正則 科長

ロボット支援下胃切除術  
—よりよい手術の提供を目指して—

胃がんに対するロボット支援下手術は、2018年の保険収載以後急速に広まりつつあります。当科では2017年に導入し、これまでに50例を超えるロボット支援下手術を行いました。私自身は、前施設での経験もあわせ、これまでに100例を超えるロボット支援下胃切除術の経験を持っています。ロボット支援下手術では、多関節機能・手ブレ防止機能などにより、腹腔鏡と比較してより繊細な手術が施行可能となっております。そのため、患者さんの早期回復につながる事が期待されています。また、精度の高いリンパ節郭清を行うことで、長期成績の改善も期待されます。ロボット支援下手術に興味をお持ちの患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。ロボット支援下手術を希望された場合の初診から手術までの期間は進行胃がんで約2-3週間、早期胃がんで約3-4週間となっております。



ロボットの操作方法について指導する徳永診療科長



ロボット支援下手術の様子

救急プライオリティーコール (医療機関からのお問い合わせのみ)

近隣地域の医療機関の皆様とより密接な連携を構築するために、救急専門医・専従医が24時間365日対応する「救急プライオリティーコール」を開設しています。



03-5803-4900 (至急応援)

メールマガジンにご登録ください!



医療連携支援センターでは、メールマガジンを発行しております。当院ホームページより医療連携支援センターにアクセスし、オレンジ色の「メルマガ申込」からご登録ください。

医療機関からの初診事前予約について お問い合わせ先 03-5803-4655 (地域連携室)

FAX予約  
の場合

FAX : 03-5803-0285  
(受付時間 8 : 30 ~ 16 : 00)



上記番号に、紹介状・申込書を送信してください。速やかに当院よりFAXで「外来診療予約票」を返信します。

\*土日祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)、および受診当日の予約は受け付けておりません。また、翌日分の予約は14時までとなっております。  
\*時間外・休日などの申込みは翌診療日にご連絡させていただきます。(FAX受信は24時間可能)

電話予約  
の場合

TEL : 03-5803-4655  
(受付時間 8 : 30 ~ 16 : 00)



上記番号に、電話をおかけください。その際に患者さんの氏名・生年月日・希望診療科名・予約希望日をお知らせください。

カルテ閲覧の  
ご案内

当院と連携協定を結んでいる医療機関様に限り  
地域連携システムを利用して、当院カルテの閲覧が可能になります

連携医療機関様の大きな負担なしで利用可能です  
インターネットに接続できるパソコンが1台あればOK!  
右記の要件を満たしていれば、既存の端末を使用しても構いません。



要件

1. インターネットに接続できる環境があること。また、PCの設置場所は施錠できる環境にあること。
2. Microsoft社のサポート期間内のOSにて動作するパソコンを使用すること。
3. Microsoft社のサポート期間内のInternet Explorerを使用すること。
4. 有償のウイルス対策ソフトを実施し、Winnyなどのファイル共有ソフトを削除すること。
5. PDFファイルの閲覧にはAdobe社のサポート期間内のPDF閲覧ソフトを使用すること。

★これらの要件を満たしていれば、申込みいただけます!

1. 申請書の提出。
2. 提出いただいたのち、接続させていただけるか検討いたします。
3. 決定後、順次連携医療機関様へ伺って、接続を行います。

※申込み多数の場合は、利用するまでにお時間がかかる場合がございます。

連携協定及びカルテ閲覧の申込み 医療連携支援センター 03-5803-4391



医療

連携だより



- 東京医科歯科大学医学部附属病院の理念と基本方針
- 理念：安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院
  - 目標：1. 患者中心の良質な全人的医療の提供  
2. 人間性豊かな医療人の育成  
3. 高度先進医療の開発と実践  
4. 国民のニーズに応える開かれた病院

医療連携支援センター TEL : 03-5803-4655 (地域連携室)  
FAX : 03-5803-0119  
予約専用FAX : 03-5803-0285



財団法人日本医療評価機構 認定病院



東京医科歯科大学  
医学部附属病院  
医療連携支援センター長  
(病院長補佐)  
泉山 肇 (いずみやま はじめ)

新年を迎え、皆様には益々ご清祥のことと心よりお喜び申し上げます。

また、日頃より当院との医療連携に格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は、国が掲げる医療機関の機能分化にのっとり、特定機能病院として「安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院」を理念に高度先進医療ならびに高度急性期医療を提供しております。当院ならではの医療をより多くの患者さんに提供できるよう、在院日数の短縮を目指し鋭意努力しております。短期間で在宅復帰できる患者さんは可能な限り紹介元医療機関に逆紹介できるよう心掛けておりますが、急性期あるいは回復期機能をもった病院への転院が必要な患者さんに関しましては入院期間が長くなる傾向があり、効率的に転院先医療機関を決定できるようなアライアンス連携を構築したいと考えております。また、外来支援の充実により、重症緊急入院の件数を減らすことも在院日数の短縮には必要なことと考えており、今年は当センターの看護師、医療社会福祉士(MSW)、事務職員が中心となり外来支援に取り組みたいと考えております。

このような退院支援・外来支援への取り組みが患者さんにとって望ましい形で結実するためには、地域医療機関の皆様とのシームレスな医療連携が必要不可欠と考えております。

地域医療機関の皆様におかれましては、これまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



がんゲノム診療科スタッフ

TOPICS

- 医療連携支援センター長の挨拶
- がんゲノム診療科のご紹介
- 胃外科ロボット支援下手術のご紹介
- 各種ご案内



医療連携支援センターの役割

- 紹介患者さんのスムーズな受け入れ
- 医療機関からの初診事前予約受付
- 入院・退院患者さんとそのご家族のサポート
- その他の医療・福祉相談

# がんゲノム診療科のご紹介

当院は、厚生労働省より2019年9月、全国に34カ所ある「がんゲノム医療拠点病院」の1つに指定されました。当院のがんゲノム医療は「がんゲノム診療科」が中心となって診療します。 ※「がんゲノム医療拠点病院」とは、がんゲノム医療を提供する機能を有する医療機関として認定された病院です。



## がん先端治療部



横断的ユニット・センター

- がん相談支援センター
- 緩和ケアセンター
- 骨転移診療ユニット
- 遺伝性腫瘍ユニット
- がんリハユニット
- がんゲノム診療ユニット
- がん生殖医療ユニット
- がん循環器診療ユニット

包括的がん治療センター

- プレストセンター
- 腎・膀胱・前立腺がんセンター
- みみ・はな・くち・のどがんセンター

基礎ユニット

- がん薬物療法調整ユニット
- 臨床試験調整ユニット
- 事務・がん登録ユニット
- レジメン審査委員会
- 外来化学療法センター

**がん先端治療部とは？** がん先端治療部は、従来までの「腫瘍センター」を改組して、2019年8月から運用を開始しました。複数診療科による「横断的ユニット・センター」、臓器別に多診療科が関わる「包括的がん治療センター」、がん薬物療法やがん登録のマネジメントを行う「基盤ユニット」の3つの部門で構成されています。

## Q&A

### Q がんゲノム診療科とは？

**A がん細胞の遺伝子を調べ、患者さんに合う治療を行います。**

大腸がん、肺がんなど、同じ種類のがんでも、がんの中で生じている遺伝子の変化（異常）は患者さんごとに異なります。そこでがんゲノム診療科では、特定のがん患者さんを対象に「がん遺伝子パネル検査」を実施し、がんに関わる遺伝子、特に治療の標的となる遺伝子を1度に調べて、抗がん剤や最適な治療の選択に役立つ情報を提供します。

### Q がん遺伝子パネル検査とは？

**A がんの組織から1度に100以上の遺伝子を調べる検査です。**

がん遺伝子パネル検査は、生検や手術などで採取されたがんの組織を用いて、高速で大量のゲノムの情報を読み取る「次世代シーケンサー」という解析装置で、1回の検査で多数（多くは100以上）の遺伝子を同時に調べます。

### Q 対象となる患者さんは？

**A 稀少がん、原発不明がん、標準治療がない患者さんなどです。**

がんの標準治療に不耐または治療抵抗性となり、それ以上の標準治療がない患者さん、または、現在受けている標準治療に不耐または治療抵抗性になると、そのあとは治療法が残されていない患者さん、原発不明がんと診断されている患者さん、稀少がんと診断されている患者さん、全身状態を診て医師が検査の必要性を認めた患者さんなどが対象となります。



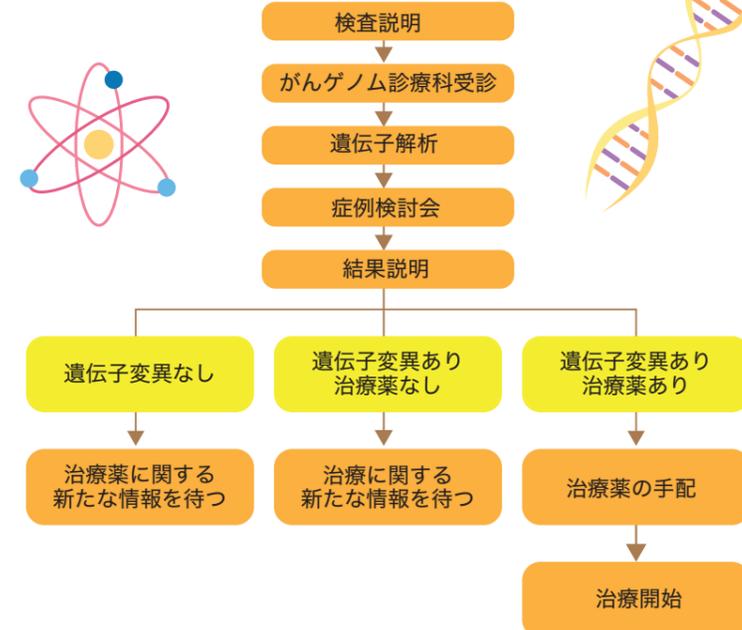
がんゲノム診療科による診察の様子

## Q 検査～結果が出るまでの期間や流れは？

**A 約2カ月かかります。流れは下図をご覧ください。**

## Q&A

### がんゲノム検査の流れ



## 注意事項 お願い

当科で行っているがんゲノム検査の結果が出るまで約1～2カ月かかることもあり、病勢がすでに進行している場合には検査結果をお伝えする前に病状が悪化してしまい、治療が困難になる場合もあります。紹介時にすでに標準治療がない、という状況では進行している場合も多いため、最後の標準治療を開始した時点など、少し早めに患者さんをご紹介ください。

## Q 検査のメリットは？

**A 高い治療効果や副作用の可能性を低くできる治療薬を選べる可能性があります。**

検査を受けて治療可能な遺伝子の変化が見つかった場合、その変化に合わせた治療を行います。一人ひとりの遺伝子の変化に合わせた治療薬を用いることで、高い治療効果や副作用の可能性を低くできることが期待されています。

※治療の保険適用について  
患者さんがんでその治療に保険適用があれば、既存の検査で確認した後に通常の保険診療として治療薬を用いることがあります。保険適用がない場合にも、対象となる企業治験、医師主導試験や臨床試験などがあれば、それらの情報を患者さんにお知らせします。もしその試験に参加できれば、保険が認められていない薬でも治療を受けることができる可能性があります。

## Q 検査で得られる情報は？

**A がん細胞に治療可能な遺伝子の変化が明らかとなった場合、治療効果が期待できる以下の治療薬の情報が得られます。**

- ① 国内で承認済みの保険適用の治療薬
- ② 国内で臨床試験（治験等）中の治療薬
- ③ 海外で承認済みだが国内では未承認の治療薬
- ④ 治療しようとするがんに対しては承認されていない治療薬

※③と④は自費診療となるため、治療費が高額になることが予想されます。

## Q 検査を受けて、治療法が見つからないこともある？

**A あります。検査を受けて治療法が見つかるのは全体の約15%程度です。**

遺伝子の異常や、治療の標的となる遺伝子が見つからなかった場合は、ほかの治療を検討します。がんの種類にもよりますが、治療選択に役立つ可能性がある遺伝子変異は、約半数の患者さんで見つかります。遺伝子変異があっても、使用できる薬がない場合もあり、がん遺伝子パネル検査を受けて自分に合う薬の使用（臨床試験を含む）に結びつく患者さんは、当院の実績では全体の約15%程度です。

## 問い合わせ 方法

下記のメールアドレス、または電話番号にお問い合わせください。

### ◆問い合わせ先

東京医科歯科大学医学部附属病院  
がんゲノム診療科  
Email : genome.canc@tmd.ac.jp  
TEL : 03-5803-4873